

年間第 16 主日
マタイ 13・24～30

2014.7.20 9:30 ミサ
柴田 潔(イエズス会司祭)

東京に戻ってからこの4カ月、英語の勉強と一緒に家族心理学を勉強してきました。山口の幼稚園で、モンテッソーリ教育という幼児教育のスキルを学びました。蝶結びの仕方、野菜の切り方、アイロンのかけ方、あいうえおの書き方、足し算などの計算、世界地図などたくさんを教えられるようになりました。免許もあります。この免許のために、2年間で150日位かけたんですが・・・でも、家族が与える影響の方がずっと大きいことが分かってきました。単身赴任だったり、お母さんが妊娠すると子どもの様子が変わるのを見てきました。不登校、発達が遅い子を育てる家族の手伝いをもっとできるようになりたいという思いでこの4カ月勉強してきました。そうするうちに、この家族心理学は、とても奥が深い、神さまの癒しと感じられることがあったのでご紹介します。

<あるセラピストの体験です>

女性の小学校の先生が相談に来られてこう言われました。

先生： 「感情的な親からいつも辛く当られて、何もいいことがない子ども時代でした。今でも不安が強くて人の顔色を敏感にうかがってしまいます。気が重くて人と会うのが苦しいです。うつなんです。こんな自分なので子どもたちに悪い影響を及ぼしているような気がしてなりません。私なんか教師をする資格はありません。これから先もきっと希望なんて持てないです。」

セラピストはこう質問します。

セラピスト： 「そんな辛い中、どうやってお仕事続けられてきたんですか？」

先生： 「毎日、きつくて辛かったですけど『こんな自分でも、何か子どもたちの役に立てるかもしれない。死ぬまでの我慢。』と自分に言い聞かせて出勤してきました」

セラピスト： 「あなたのそんな深い悩みの経験は、子どもたちとの関わりの中でどんなふうに生かされてきましたか？」

先生： 「全然、生かされることなんてないです・・・。」

セラピスト： 先生からなかなか生かされた体験が言葉に出てきませんが、何かないか粘り強く尋ねます。「あなたのそんな気配りや思いやりを分かろうとしたり、感じてくれるのは誰ですか？」

先生： ……

セラピスト： 「運悪く、苦しんでいる子どもたちに生かされた体験はないですか？」

先生： （だいぶ時間が経って・・・）「そう言えば、おとなしくて静かな男の子が・・・自分に元気がないので元気のない子には気をとめて声をかけてきたんです。」

セラピスト： 「詳しく話していただけますか？」

先生： 「ある日、職員室で残業していて、教室に忘れ物があることに気付いて取りに行きました。すると、その男の子がみんなでするはずの宿題を一人でしてたんです。「よく頑張ってるね！」と声をかけたら・・・様子がいつもと違うので、そばにいたんです。すると、しばらくして、涙を流し始めて・・・。「どうしたの？」と聞くと、ポツリポツリと話し始めたんです。3年前、妹と公園に遊びに行こうとして、途中の道路で・・・先に渡った僕が、「今だ、今渡れ」と言ったら、妹は少し遅れて渡り始めて・・・トラックにはねられて・・・死んでしまったんです。お父さん、お母さんから「どうしてそんな渡り方したんだ？」と責められて・・・僕も悪かったと思うけど、もうどうしていいか分からなくて・・・それから何も話さなくなったんです。この子にこんな辛いことがあったとは思いませんでした。」

セラピスト： 「男の子の話を聞いたこと、それって大きなことですよね。先生の辛かった子ども時代の体験が、その男の子に生かされて・・・誰にも言えなかった心の叫びを聞いたんじゃないですか？ 自分なんか教師の資格がないと言われましたが、そんなことないんじゃないありませんか？」

先生： 涙がこみ上げて・・・。

セラピストは、その後も、子どもの役に立てた体験を厚くしようと、いろいろな提案をします。「家族関係に悩み学校で元気のない子どもを支える草の根運動」をしませんか？とスローガンを作りました。「子どもの頃の残念なことに人

生を支配されないで、前向きに生きようと決めたことを証明します」と表彰状も作りました。

これまで、「自分はダメで役に立たないという」思っていた先生が、段々と、「自分の辛かった体験は人を助けるためだったんだ」と思えるようになりました。「辛い体験があっても乗り越えていける。」

先生をそう導いたセラピストに、感動しました。そして、私もこうなりたいと思いました。

今日の福音では、毒麦のたとえが読まれましたが、私たちの人生にも、先生のような辛い体験もあります。でも、神様は、そのままにはされないはずです。辛い体験があっても、新しい人生を用意して下さいます。私は、これから、黙想指導や福島のご家族を下関に招くお手伝いに行ってきます。セラピストのような関わりができたらと思っています。高円寺教会のみなさんも、さまざまな体験を活かしてくださる神様の力を感じて新しい一週間を過ごしましょう。